

日出学園

緊急時の際の設備・対応について

校舎は震度7まで耐えられる耐震構造となっています。2011.3.11の東日本大震災の際も特に影響はありませんでした。



飲料水は敷地内に受水槽があり、上水（飲料水）を常時18,000リットル確保しています。これは1日1人3リットルとして、2,000人が3日間過ごせる量です。



備蓄庫内：備蓄品目

- ・サバイバルフーズ（消費期限2021年9月）
ファミリーセット300ケース（2,000人3日間）
- ・器・フォーク付きスプーン 2,000個
- ・圧縮毛布、サバイバルシート 各1,000枚
- ・安全キャンドル100 詰替え用ろうそく200
懐中電灯、ラジオ各50個

施設・設備面

- ・各校及び学園業務部に停電対応の災害時優先電話（各代表番号・計4回線）を設置しています。
- ・インターネットサーバーには無停電装置を設置し、一定時間バッテリー稼働をすることにより、安否情報発信対応ができるようになっています。

発生時対応 安否確認

- ・揺れが収まり次第、安全な場所（グラウンド等）へ一時的に避難し、各校（園）クラス単位で安否確認を行った後、弟妹のいる中高生は弟妹と集合します。中高生は交通機関の復旧と安全が確認でき次第帰宅させますが、園児・児童については保護者様の引き取りを前提としています。

発生時対応 安否情報発信

- ・インターネット回線が直接的な被害を受けていない限り、安否確認を行い、学園ホームページ及びTwitterに安否情報を掲載します。また補完情報として、ニッポン放送（AM1242もしくはFM93）にて学校安否情報を放送する契約をしています。この放送はパソコンやスマートフォンで「radiko」というアプリでも聞くことができます。
- ・学校HP:<http://www.hinode.ed.jp/> Twitter:<https://twitter.com/hinodegakuen>

備蓄品対応

- ・園児・児童・生徒が交通機関などの遮断により帰宅困難になった場合に、約2,000名が3日間過ごせる規模で想定しています。
- ・飲料水は敷地内の受水槽が被害を受けた場合、非常災害保存飲料水（消費期限2020年3月）を確保してあります。
- ・最後の手段として井戸水を確保しており、地下130メートルより採水しています。業者による水質検査を毎年実施しており、飲料水として利用可です。万一電気が止まっても汲み上げ対応する自家発電機も準備してあります。

平成28年備蓄庫見学ツアーから



味はカンパンにやや似ていますが、
もっとずっと食べやすくできています。



ドライフードはそのままで食べられるのですが、水を入れるとこのようになります。なかなかの美味しさで、満腹感があります。



器・フォーク付きスプーン
非常災害用保存飲料水



圧縮毛布
サバイバルシート



サバイバルシートは大人ひとりがまるまる包まることができる大きさです。室内で試してみたところ、やや汗ばむほどの保温性でした。

最後に・・・

今回の備蓄庫ツアーにより、日出学園の災害時対応はかなり安心できるものと感じました。しかしながら、災害発生の際には学校の対応に任せきりではなく、私たち保護者も、送迎・帰宅ルートの確認、子供たちとの連絡方法の確保など、もしもの時の準備をしっかりとしておくのは当然のことです。いまいちど、家族間で確認をしておくのもよいですね。

また、学校の安否情報発信をいち早く受け取るために、学園ホームページのブックマーク、Twitterのフォロー、ラジオのチャンネル登録などもお勧めいたします。

日出学園ホームページ：<http://www.hinode.ed.jp/>
日出学園Twitter：<https://twitter.com/hinodegakuen>
radiko：<http://radiko.jp/>

*現在の備蓄庫の食糧にはアレルギー食対応のものはないとのこと。その件も含め、今後もよりよい対応ができるようご検討いただけるとのことです。



学園業務部の皆さま、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。